

前後十六章百五十五節に再別し、附するに神宮及び主なる官國幣社一覽、神道各教派管長及事務所、佛教各宗派總本山大本山及本山一覽、佛教各宗派檀家及信徒、基督教各派等の十項を以てし、建國以來關東大震災に至るまでの神儒佛耶の四教に關し各時代に於ける諸宗教の起原、教祖、教理、發達、儀式より、道德風俗政治教育に及ぼせる影響を明かにし、加ふるに祈禱、卜占、禁厭、祭典、會式等の俗信仰に至るまでの事實現象を網羅したるものなれども、特に奈良朝時代の六宗昌隆期の記述、近世に於ける神儒佛分離期に關する記述及び明治時代の宗教を説ける邊は注目に價する。(菊版七六六頁、價五・五〇、自修社發行)【以上中村】

●日本神話傳説の研究 高木 敏雄著

本書は故大阪高等學校教授文學士高木敏雄氏の遺稿中神話傳説に關するものを集録したものである、高木氏が我國神話學の開拓者としての功績はこゝに贅言するの要はあるまい、篇を分ちて神話、傳説、説話、童話の四

し、その中に日本神話學の建設、日本神話學の歴史的概観、素盞鳴尊神話に現れたる高天原要素と出雲要素、大國主神の神話、浦島傳説の研究、牛の神話傳説、説話學者としての瀧澤馬琴、日本説話の印度起源に關する疑問日韓共通の民間説話、人身御供論、英雄傳説桃太郎新論等の諸篇あり、其の研究方法にはもつと強く民族心理學に立脚し、且つ歴史的考證に重きをおいたら思はれる節もないではないが、何れにしても我古代史や、土俗學を學ばんとするものゝ必ず一度は眼を通しておかなければならぬものであらう。(菊版五七〇頁岡書院發兌、定價五・〇〇)【徳重】

●近代蒙古史研究

文學博士 矢野 仁一著

著者が近世支那の政治外交史に深造し卓拔着實なる識見を懷きて我が東洋史學界に擅長の命名を博せらるゝは周知のこゝに屬し、學者は勿論政治外交家より實業家に至るまで皆其の卓見を聞かむと欲して翹望するや久しい本書は十數年來燃犀の爛眼を以て潛心注意せられし近代